中教審答申＝大学立法粉砕、明大闘争勝利のスローガンの下に、十七日の学生大会において、圧倒的多数の賛成を得てスト権を確立した。今日（二二日）の全共闘結成大会でも、多くの学友が結集したなかで、新たな展望が確立できたと考える。

具体的な戦術、方向性に関しては、毎月開かれる代表者会議の下で、検討し、煮つめていくつもりだ。この会議は、闘争に主体的に参加する者なら誰でも加わることができる、連続会議的な性格をもっている。ここでは、論理をもちきれない部分に、論理を与える作業をやっていかなくてはならない。

主体的に運動を展開していくために、闘争形体は、評議会方式をとった。末端の組織として、各闘争委が存在する。われわれは、多くの学友に、バリケードの中で討論を積み、重ねる闘争委に結集するよう働きかけていく。

今、共に闘いぬく部隊の中には、党派アレルギー、現在的には、ブントアレルギーがあることも事実である。これを解消しつつ広範な大衆運動にもっていくよう努力したい。その中で、できた批判であれば、受けてたつ姿勢はできている。

一応二十五日に理事会・連合教授会との団交を予定している。その後、文部省へデモを行なうつもりだ。

われわれは、帝国主義大学解体をめざして、断固闘いぬく覚悟ができている。明大闘争勝利にむかって推進したい。

（学生会中執委員長代行）

広範な〝大衆運動に〟

学生会　長善一

今回の明大闘争は、学費闘争の総括入安保ブントをのりこえられず、ボス交（二・二協定）で終結、また、組織論がなく闘争に大きなマイナス部分として作用した▽をふまえたうえで、全共闘運動として闘争を展開していきたい。だからこれからの全共闘は組織論に立脚したうえで、それを物質化していかなければならない。

全共闘は運動をやっていくなかでの統一戦線であり、そのなかで大衆運動をダイナミックに展開していくつもりである。日大・東大闘争で注目されてきたノンセクト・ラジカルをも広範に組織していけるような、討論の場を設定し、保証し、運動の真的向上をめざしたい。運動は量より質の問題であり、理論面でも活動の面でもすぐれた行動隊を全共闘内部に形成していくつもりである。全共闘内部でも反大学講座なども設定し、現実のなかでの差別を根底からくつがえし、プロレタリアートのなかにすんなりはいっていけるインテリゲンチャを養成していく。運動の方向としては、夏休みに大きな結集をはかり、休暇中に思想を強固なものにする理論武装に集中したい。今度の闘争は終わりのない闘いであり、非妥協のたたかいである。したがって最後の最後まで闘かうことをここに宣言したい。闘争を和泉祭や駿台祭を毎日実行しているようなな気分でなっていくとともに、闘争の妨害・破壊にはゲバ棒をもって粉砕していくことを明らかにしてゆきたい。最後に明大が一人一人この事態を認識し、闘争に参加することを期待している。

（学生会中執厚生部長）

〝反大学講座〟も設定

全共闘　両川敏雄

一部が二十一日に全共闘を結成し、バリケードストに突入したが現時点においては、われわれはまっきりした展望をもちえていない。ただ一ついえることは、バリケードは断固として守るということだ。

今後、バリケードの中でクラス討論を展開していくなかで、まだ結集できえていない法・商の一学部に対する働きかけを強めていきたいと思っている。

現在、商学部では、九クラスがスト賛成を表明して、闘争委員会を結成している。法学部では、六クラスがスト賛成を表明して、同じく闘争委員会を結成している段階である。しかし、商学部は、全体的に運動が低調なため、困難が予想される。今後、多角的を使って、呼びかけを行なっていきたい。果してどれだけ徹底できるかとの懸念はあるが、悲観はしていない。

目下のところ七月一日の臨時学生大会にむけて、真の全共闘運動をめざして闘いぬいていくことに目標をしぼって全力をあげて取り組んでゆく。この学生大会において、全一部としてスト権を確立したいとしている。

いずれにせよ、全学ストに入っているので今後クラス討論や、学部集会を持つことが困難にはなっているが、一日の学生大会を成功させるつもりだ。

くり返していうが、現在の段階では、バリケードは断固として守り抜いていくということだけはいっておきたい。

（学苑会中執事務局長）

バリストは断固守る

学苑会　本間晟豪

大学組法粉砕を含め、六項目要求をかかげて全学バリケードストライキに入ったのであろうが、封鎖のために学内の建造物、器具をバリケード用に使用したのは遺憾である。学生自らの手で教育・研究の場を奪うことになるのでかましくないと考える。

このバケード封鎖に対して、どのような処置を理事側と会して考えるかという事は、早急に決定する必要がある。警察力を導入して封鎖を解除するのかという意見が単にこのまま続く場合にはともかくも、バリケード封鎖が原因で学内に暴力的行争が横行したり、利権あらそいで学生同士が乱闘したりした場合には、機動隊の学内導入をはっきりと拒否するとは保証できない。あくまでこの点については、その時期が来るまで断定は出来ないといってよい。

理事会は、このような事態をあらかじめ予測していたので、本部の事務はすでに神田小川町の大下宮ビルを借りているので、十分とはいえないだろうが、さしあたり本部関係の事務はそこで行なう。学生諸君の間にもとまどっている人があろうが、今後、大学側の発表には十分注意をむけていてほしい。

大学は、教育・研究の場であるから、紛争の解決にあたっては、学長を中心とする教学側のだす方針に沿って、法人側はあくまで、これをバックアップする姿勢をとることが、早期の解決につながると思う。

（弁護士）

機動隊拒否保証ない

理事長　水野東太郎

バリケード封鎖は大学にとって研究・教育や一般事務がマヒすることであり、誠に忌び嫌いことである。これに対し、大学当局としては、いわゆる物理的なこと、つまり機動隊の導入であるとか、教職員の手による封鎖解除といったことは、好ましい結果とならないので今のところ考えていない。バリケードを築いた学生が、自らの手で排除することを期待している。また、バリケードに反対する学生が解除することも不祥事が起こるので困る。いずれにせよ、あくまでも理性的手段をもって平和的に解決したい。そのためには最大の努力を惜しまないつもりでいる。また、学生との話し合いにはいつでも、いかなる場所、それがバリケードの中であろうと応じたい。大学立法、中教審答申には大学の全教職員も反対しているので、学生と全く同じである。このほか大学自身も色々改善しなくてはならない点が多いので、ただちに着手するつもりでいる。

これからは大学の教職員の総意により行動したい。手ぬるいとかなまぬるいとか思う人も多いと思うが、あくまでも刺激しないように冷静に考えたい。処分や大学側ロックアウトについては白紙である。また、いわゆる外部隊の人はできるなら退去してほしい。あくまでも明大人を対象に考えていく。

ともあれ、大学の自治を自らの手で自を締めることはやめてもらいたい。あくまでも慎重に良くかかるとは思うが、無理なくこの非常事態に対処していくつもりでいる。

（政経学部教授）

理性的手段で解決を

学長　中川富弥

多くの学生は、バリケードストには反対だと思うのだが……一体あのバリケードは誰にむけてのものなのか。われわれ教員および大学側にむけてのものだとすればあまりにも一面的なとらえ方だといわざるをえない。教員に対して一律に敵対視する中から何が生まれてこよう。

今日（二十一日）、中野高校で「大学の当面する情勢とそれに対する方針」を討議する教職員集会が、四〇〇人の参加そのほか開かれ学長から、紛争・大学立法に対する決意表明が述べられた。これは決議機関ではないが、大学封鎖・占拠中の大学の姿勢についておおかたの意思一致ができた。一部の学生がいうような学生対策的な意図は全くない。大学立法には反対し、示威行動を起すことも考えている。

どこでも話し合う

学生部　松田孝

いずれにせよ、大学を国家権力の末端機関としてみるというのはあまりにも一方的なとらえ方である。

大学としては、全共闘を認めないとは考えていない。学生部としては、六項目要求の一つに学生部廃止がもりこまれている現在、積極的に学生諸君の中にはいっていくことは適切でないと考える。余計な誤解は生じさせたくないので一定の条件が整えば、バリケードの中へ入ってでも話し合いを行っていきたい。

ともあれ、大学をよくしたいという点では同じ基盤をもっているのであるから、話し合いに関してはかたくなな態度はとらない。

（学生部長・文学部教授）